

青森県の 市町村 情報



東北町ミニデータ

- 人口 17,687人
(男8,557人、女9,130人)
- 世帯数 7,230世帯
(平成31年1月31日現在)
- 特産品
道の駅おがわら湖に新鮮野菜・魚介類、
その他加工品が並んでいます。どれも
おすすめです。

【概況】青森県東部、上北地方の
ほぼ中央部に位置する。広大な
緑の台地と、町の東部一帯には
県内で最大、全国でも11番目
の面積を誇る小川原湖がある。
恵まれた地域の特性を活かし、
ナガイモ、ニンニク、シラウオ、
ワカサギ、シジミ、酪農等農林
水産業が盛ん。

東北町発★キラリ

各市町村で活躍するグループ・団体・企業等をご紹介します。
今回は『道の駅おがわら湖産直友の会』をご紹介します。
会長の小笠原廣子さんにお話を伺いました。

産直人気の理由は…

道の駅おがわら湖には、町特産の新鮮な
農産物、地域に伝わる総菜や漬物、お菓子
といった加工品が並び、町内外から多くの
人々が訪れ、にぎわっています。「安心、安
全、美味しい、安い」をモットーに、直売所
へ商品を出荷しているのが「道の駅おが
わら湖産直友の会」の皆さん。会長の小
笠原廣子さんを中心に、若手からベテラン
まで多くの会員が定期的な研修会や情報
交換等の協力体制を確立し、日々の出荷作
業と共に、販売促進や魅力発信に取り組ん
でいます。

例えば、毎日4回、メールでの売り上げ
報告を受け、欠品をすぐ補充する、冬野菜
の保存方法を学び一年を通して品揃えを
安定させるなど、消費者目線のこまやかな
対応を欠かさず、秋の収穫祭や野菜の試食
会、買い物をするためにバスを運行するな



▲会長の小笠原さん。
道の駅おがわら湖の売り場には自慢の餅米加工品が並ぶ。

ど、楽しい企画も盛りだくさん！直売所
の清掃活動やイベント運営は当番制で取
り組み、会員が協力して絆を深めていま
す。平成15年の設立当時、約60名だった会
員も、現在では125名。15年間の活動で、
売り上げは年間2億円に上っています。

家族の協力が安定収入へ

小笠原さんは、昭和45年から農業に従事
する中で、「汚い・苦しい・辛い」といった
農業に対するイメージを変え、女性にとつ
て魅力的な職業であることを示したいと
考えるようになりました。家族の理解と
協力を得て、家族経営協定を締結し、農産
物の6次産業化を主導してきました。

小笠原さんは、家族や友の会の会員とと
もに、毎朝、餅米の加工品をつくり、朝9時
までに出荷。午後は屋外での作業や翌日
の仕込みに取りかかります。「一人の力は
一人分ではないし、限度がある。夫や家
族が協力してくれることで、身体も楽にな
り、報酬も増えた。」という言葉どおり、友
の会設立当初、小遣い程度と考えていた収
入も、今では一家を支えるほどになりま
した。

現在は、若手農業者や女性起業家の支
援、子どもたちへ農業の素晴らしさを伝え
る活動にも力を入れています。

「私たちは命の源をつくっている。安
心・安全には自信がある。」
道の駅おがわら湖には、おいしさと元気
が今日もあふれています。

私が男女共同参画を 担当しています

東北町企画課
課長補佐
金沢 明子 さん



東北町は、女性も男性も自分の希望する生き方
にチャレンジできる社会、そして、互いにその人権
を尊重しつつ、責任を分かち合い、社会のあらゆる
分野に対等な立場で参画できる社会を目指してい
ます。役場内では配偶者出産休暇の取得率が向上
し、男性職員の育児参画も増加しました。今後は
イクメン研修会等への参加を呼びかけ、男性職員
が育児の場でも益々活躍できるようにしたいと考
えています。

9月に青森県男女共同参画センターとの共催で
実施したワーク付き上映会「おひとりさまを生き
る」には、50〜80代の方32人が町内外から参加
し、一人で悩むよりみんなで話し合う、そして明日
から少し何かが変わる、という気づきの場となり
ました。また、当町の審議会における女性委員の
割合を見ると、前年度より1.4%増え、今年度
は8.5%に。少しではありますが向上傾向に
あります。

道の駅おがわら湖産直友の会の皆さんは、会員
が意見を出して協力する体制ができています。そ
のことが、農家の女性たちの経済的自立につなが
り、地域での地位を確立してきていると思いま
す。このウーマンパワーを活かして今後も活躍し
ていただきたいと思います。

(取材：吉町 友美)